

校友会報

第 20 号

昭和46年12月20日

日本大学工学部校友会

福島県郡山市田村町徳定字中河原一

電話 郡山 44-1327

振替口座 郡山 1990

郵便番号 979-66

発行人 武藤貞泰

編集人 平手仁



武道館玄関

昭和46年度

校友会臨時総会開催される

去る10月17日（日）午後1時より日本大学工学部内、日本大学工学部校友会館1階会議室に於て、会員多数の出席のもと開催されました。

臨時総会は半沢副会長の開会の辞で始まり、武田会長の挨拶、次いで議長に関根昭一（電2回卒）書記に小川敏彦（化14回卒）がそれぞれ選出され議事に入りました。

今回の臨時総会の議題としては校友会館の移転についての案件がありますが、この件につきましては春の46年度定例総会にも話し合われ学部建物内に入るような方向で今后経費の面も含めて学部側と話し合いをして行く、なお具体的に話が進んだ時点で臨時総会を開き決定する。との決議がなされ今回臨時総会のはこびとなりました。

これについて武田会長より次の通り提案理由の説明がなされた。

46年度定例総会の決議にもとづきまして再三学部長はじめ学部関係者との話し合いを行ないましたが、学部として、学園の整備の一環として学園内に本格的な武道館の建設がなされ、近々そのとなりに各クラブの部室の建設の計画がなされているわけあります、この際我校友会としてもその建物内に会館を移した方が今后、会の運営のためにも良いのではないかとの結論になりました。と申しますのは、現在の会館は我々校友会が建設致したのですが学内に建設した関係

で学部の財産となっておるわけであります。さらに木造の建物でありまして、一度移転して現在の位置にあるわけでありますが、これも将来は建て替えなければならない時期が来るわけであります。さらに学園の全体的な配置と致しまして現在我校友会館のある位置には本格的な製図棟の建設の計画があるわけであります。以上のような事情によりまして、今回部室建設とともに学部側の意もくんで移転したいと思うわけであります。

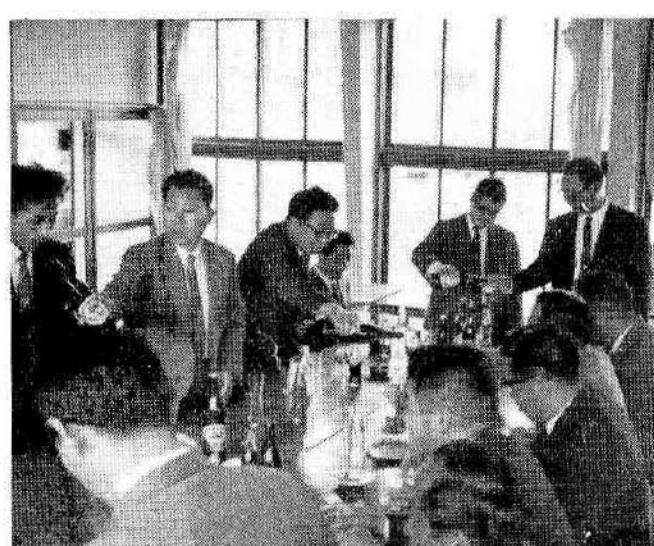
さらに、これが経費の問題ですが、校友会が専用で使用するスペースとしましては、現在の会館スペース及び将来のこととも考えまして30坪程さらに共用分としまして、会議室、便所、湯わかし室等があれば良いのではないかと思うのであります。以上のようなことから、ある程度資金を出して将来にわたり学部とよりそって、日本大学の発展を計りたいと思いまして、今回この建設資金の一部として3百万の支出を行ないたいと思いますのでよろしく御審議をお願いします。

以上の通り提案理由の説明がなされ、熱心な会員からの質疑と執行部の説明により、提案の通り決定されました。

以上審議を終り太田副会長の閉会に引き続き同会場に於てささやかに懇親会を行ない、その後全員にて武道館を見学して散会しました。



(会議の状況)



(懇親会)

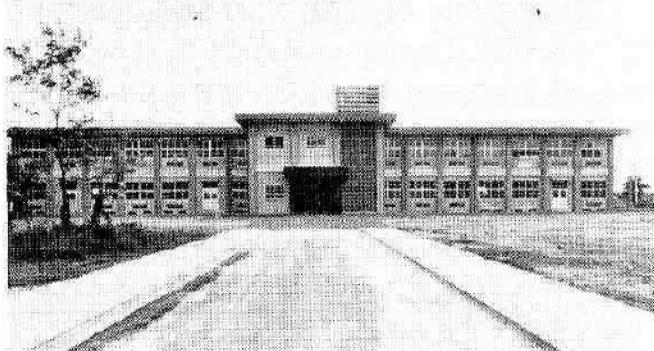
祝 武道館落成

◎わが工学部の学生、教職員久しく熱望していた総合武道館が去る8月31日に完成し、11月3日文化の日を以て落成記念式典と、こけらおとしの演武会を盛大に催してその竣工を祝った。

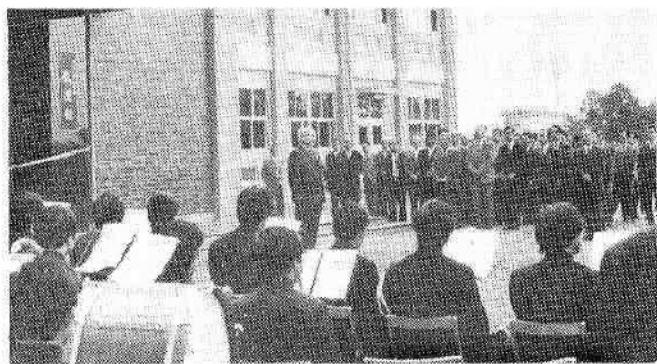
総工費1億7千余万円、建築床面積2,960平方メートル、鉄筋コンクリート造り、二階建てのスマートな近代的建築である。各部の道場配置については、下記の平面図を参照していただきたい。又シャワー室や全学生の体力向上のためのトレーニング室などが設備されていることも特徴である。

◎武道館の『栄』を祈って…………（工学部広報No.18より転載）「日本大学一を誇るこの武道館は、必ずや、学生の精神的、肉体的鍛錬の場として誕生し、学生時代を享受して数多くの名士を産出し、社会の要請に応え得る学生を社会に送り出すことであろうし、また、先にできた時計台とともに本学部の象徴として長い歴史と伝統を残すことであろう。」

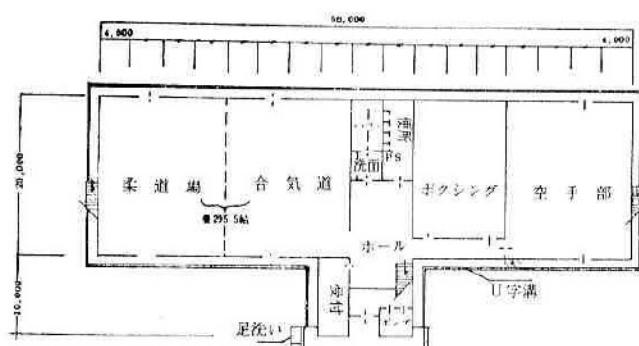
◎8千余の校友各位よ、母校の発展と学生の活躍の姿を思い浮べてほしい。ねがわくは出張の折にでも母校を訪れあらんことを…………



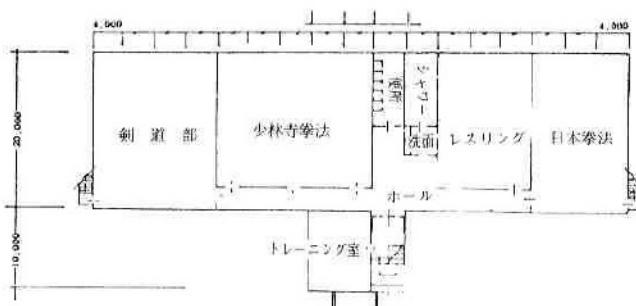
全 景



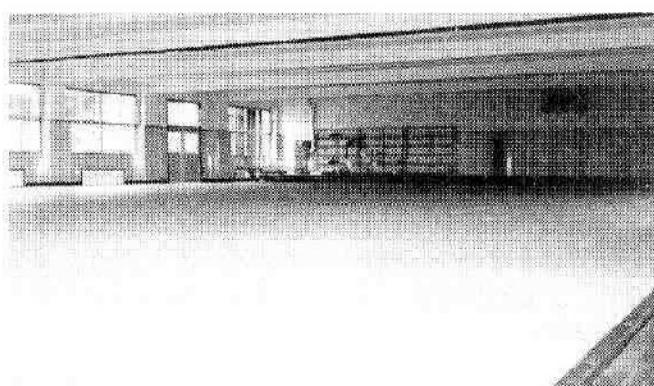
竣工式



1階平面図



2階平面図



大道場



剣道場

ヨーロッパを訪ねて

菅野宗和



今年の六月に機械工学科の第六回卒業生（昭和32年度）が卒業以来はじめて、郡山に集まり同級会を開きました。

私共も招待され楽しい一時を過ごしましたが、卒業後13年の間にそれぞれ社会の中堅としてめざましい活躍をしている様子が感ぜられると同時に、小池武

志君（三面工機株式会社社長）の世話を実に良く名簿作成や連絡事務が行きとどいているのに感心致しました。

夜は昔話しから始まり自然と仕事の話に花を咲かせましたが、割合多くの人が国外生活の経験を持っている様です。この日集まった卒業生でも例えばW・Rグレース社マネジャーをしている佐藤正弘君は、前の会社即ちリッカーミシン㈱の外国部課長としてメキシコに6年の営業活動をしていました。又日本オイルシール㈱製造課長の北畠三男君はカナダに新工場建設のため家族同伴で1年間滞在しています。木村恭君はリズム時計㈱課長として欧洲及びアメリカに出張し時計の市場調査をして来ています。又三愛石油㈱羽田工事課長の森本淵氏は成田新国際空港の給油ラインをレイアウト後米国及び欧州のエアポート視察を三ヶ月の日程で廻って来ました。又佐藤螺子営業部長の増山敬芝君は米国に、その他かなりの卒業生が国外においても活動しており、校友の活躍も国際的になって来ております。

おくればせながら私も8月より10月までの約3ヶ月間ヨーロッパに大学から出張を命ぜられ駆足で材料工学関係の研究所などを視察して参りました。

くわしくは工学部広報にも報告しましたが、以下簡単に報告申し上げます。イギリスから、フランス、イタリアと廻りましたが、主にスイスと西ドイツに滞在致しました。

《スイスにて》

スイスでは例のニクソン声明によるドルショックに見舞われました。銀行でのスイスフランのレートが突然低下したのです。最初は全然情報が入らず混乱しました。それまではZürichのAtlantis Hotelという山手のリゾートホテルに泊っていましたが、Zürichの知人に電話し湖のそばにあるHotel Seegartenに移りました。今後どんな事になるかわからず少しでも節約しようと思ったからです。

Zürichを中心にNeuhausen Am Rheinfallのスイスアルミニウム研究所、PROCEQ社、BielにあるSchulup社などを見学致しました。大都会を離れると英語は通じない様です。

前に機械の卒業生である安田元彦氏（安田工業株式会社役員）よりスイスに行ったらぜひGeneveのSIP社を訪ねる様にすすめられた事もあってここを訪ねました。SIPは測定機とジグボーラーで世界一流の会社です。マスタースケールを切る室も見せてもらいましたが目盛を切る時間は温度と振動の安定する夜の10時より朝4時までとか、実に神経を使っております。又Keyなども太い軸より削り出しており我が社のKeyは抜けたりゆるんだりは絶対しないと自慢しております。

《西ドイツ》

DarmstadtにはHofman社、Carl Schenk社があります。Hofman社は均合い試験機械を作っていますが、ここより別れてCarl Schenk社が出来たそうです。偶然Carl Schenk社で東京工大の谷口修博士と一緒に一日見学致しました。Carl Schenk社は均合い試験機の外に疲れ試験機などの材料試験機、動力計なども製作しております。大阪の長浜製作所より日本人技術者が2名程出向いて、来年より合弁会社を日本に設立するため研修していました。

夜は谷口先生と共にDinnerに招待されNeuhofという森の中のRestrauntで夕食を共にしました。専務のHasso氏、工場長のReimer氏はそれぞれ婦人同伴で来られゆか的なDinnerを楽しみました。

九月も中旬を過ぎるとFrankfurtのHotelは暖房が入りライン川の散歩路にも落葉が目立つようになります。Frankfurtでは先程の佐藤正弘君の紹介でリッカーミシンの駐在員である金崎氏、星氏等に大変お世話になりました。

Düsseldorfには、Max-Plank Institutがあります。Dr. Webnerを通して材料実験室を見学致しました。低温せい性破壊実験をしていました。又高、低周波組合せ疲れ試験機などが注目を引きました。

Achenの近くにSchumag社があります。Drawing Straightening, Cutting, Polishingの連続ラインの塑性加工機械を製作しています。丁度Moscow向けの試運転をしていました。Achenは第二次大戦での激戦地でジークフリード要塞の残骸が島の中に残っております。Kisering & Albecht社がSöllingenにありますが、刃物で有名なHenkel社も近くにあります。Kisering社は、金属棒の皮むき加工機を製作しており新日鉄にも輸出している高技術を持っている会社です。スイスでもそうですが、ドイツの工場は職人養成のための学校が工場に設置されていますが、年に20名、4年間教

育します。ドイツのマイスター制度のレールリンク(見習工)の基礎課程となっています。

この他にもBTUや小さな工場等見学しましたが、次の機会にお話ししたいと思います。ヨーロッパの機械技術の一部を見て来ましたが、時間をゆっくりかけて良い製品を作っており、しかも高い価格で売っています。将来の日本における機械工業の方向を暗示しているようにも感ぜられました。最後に色々とお世話になりました松菱金属工業㈱の光山君をはじめ校友の皆様に厚く御礼を申し上げます。(筆者第2回機械科卒業 同校機械科専任講師)



フランクフルトの欧洲自動車関係国際見本市
場を訪ねて

昭和46年度工学部北桜祭開かれる

第21回工学部北桜祭は10月30日より11月3日まで行われた。開祭式には校友会からも役員が出席して盛会に実施されるよう祝福した。今年のテーマは「和」という目標をかけ、より多くの学生が参加するように配慮して計画された。

野引学部長のあいさつの中に「学部祭は学生時代における人間形成の一環である課外活動の成果を学内外に問う機会である…略…(和)の精神にのっとって学部祭をりっぱに盛り上げ、明日へ向って大きく躍動してゆく基盤にしていただきたい」と、のべられている。又実行委員長の畔柳君は「…すべての学生の北桜祭でなければならないという根本的な問題に取り組んで企画をし、学部祭開催期間中の全行事に関して(和)を感じられる学部祭であるために…略」といわれている。

期間中の数々の行事にそうした精神がにじみ出ていて所期の目的は大体達せられたものと思う。この機会に鈴木勝日本大学総長がみえられ、学部祭の関連行事に出席なされたことは幸であった。



鈴木総長を迎えて



ローバースカウト像



みこし



ヨットの展示

工業高校における 実習教育の一例

平 手 仁



現在の工業高校の教育内容は、長足の技術発展に合わせるべく複雑多様化して来ています。従来の実技指導では日進月歩の業界の期待にはこたえられないで、教育機器の導入により幾分かでも効果をあげることができるのでないかと考え、次のような試案を実施したところ、予期した結果が得られたので紹介し、諸兄のご批判を仰ぎたいと思います。

試案の目標として

- ① 教育機器によって学習の目標を理解することができ、応用することができる素地を養うことができるか。
- ② 教育機器の使用で、自分から進んで学習できるようになるか。
- ③ 実習機器の操作を教育機器にて修得させることができるか。

以上のような点を考え、目標達成するにはどのような機器がよいかまたその使用法は如何にするかということで試みました。

機器については、現在スライドとかフィルム等多くのものが市販されておりますが、いざ使用の段階となると実状にそわない点があり、取扱選択に苦労している次第です。そこで、操作が容易で運搬が手軽にでき、価格が安く、またスライドとフィルムの利点を生かせるものはどのようなものがよいかという事で調査し、シンクロファックス・アルバムを使用してみました。使用に際しては、それぞれの利点を生かすということで、シンクロファックスは実習の目的・基礎知識・機器の原理構造等の学習に、アルバムは実習機器の始業点検・操作法・終業点検・実習結果の整理等の学習に使用することにして教材を作成してみました。

シンクロファックスのシート作成では、指導内容を各項目毎に分析し表紙・録音内容をステップ化し、平易なものになるように心がけ作成をしましたが、特に録音は文語体にならぬようまた早口にならず考える間をとるように特に注意をはらいました。

アルバムは、実際のものでないと効果がないので実習の際の機器を動かしスナップを写真にして、アルバムを構成し、簡単な解説・注意等を入れて作成しました。

実験の結果、教育機器を使用して実習を指導することは問題もありますが、従来の指導よりかなり効果があることがわかりました。

使用効果としては

- ① 能力の低い生徒でも、自分から進んで実習をするようになった。
- ② 実習時間が短縮され、実験回数が増し操作をマスターするようになった。
- ③ 従来は説明不足で、機器を破損されることがあったが故障や破損がなくなった。
- ④ 教材内容を平易にしたので能力の低い生徒でも理解するようになった。
- ⑤ 教師に時間的余裕ができ、実習中きめこまかな指導ができるようになった。
- ⑥ 教材作成と評価を通して、今迄以上に指導法を理解することができた。

問題点としては

- ① 実習の進行が生徒の自主学習になるため、教材の作成には慎重を期さねばならず、不備な点は随時改訂する必要があること。
- ② 教材を過信して、指導を教育機器にまかせてしまう恐れがあるので、直接指導のときより以上に生徒の動作や反応に注意しきめこまかな指導が必要であること。
- ③ 教材の説明内容が、平易になっているので生徒の学習方法(文献調査・実験書による実験能力の養成)を修得させる訓練が不足すること。

以上、効果・問題点いろいろありますが、今後とも、なお一層教育内容が多様化していくことが考えられますので、教育機器の活用については研究して教育の能率化を計っていきたいと考えています。

最後に諸兄のご批判・ご指導をうけたまわりたく存じております。(筆者工業化学科第5回卒業 福島県立郡山工業高等学校勤務)

新卒校友の声

実社会に出て思うこと

建築 斎藤 史郎



四年間も慣れ親しんだ学窓を離れ八ヶ月余り、ただ夢中で毎日を過ごしてきた感がする昨今です。今回幸いにも校友の皆様と接する機会を得られたことを、心から喜んでおります。というのも元来樂天家の自分にとってこの八ヶ月余りというものは、将にペリーが浦賀へ来航し、煙

をはく鉄製の黒船を見た江戸町民とかわりなかったと言っても過言ではないと思うと同時に、鎖国という井戸の中の蛙であった自分自身の反省を聞いてほしかったからです。ぼくは現在、フジタ工業設計部技術設計室構造部に在席しています。仕事の主な内容は、簡易な建物の構造計算と四面作成です。この文章を書くにあたって何をどう表現してよいものかと迷いましたが、前述の如く現在の建設業の状況と、自分自身の目標、反省などまとめてみたいと思います。ここ数年来建設業は、非常に盛んとなっています。万国博覧会を境にその勢いは衰えてきて、ドルショックによる影響を考慮したとしても、明治以降の活況のどの時期と比較しても、現在ほどの規模拡大と多角化はみられないと言われています。その裏付けとして都市人口集中、過密化による交通事故の激化、住宅不足、公害などにより都市再開発が強く呼ばれていることがあげられます。

今までにないブーム、需要の増大、工事の大規模化、技術の高度化多彩化、建設事業の拡大と確かに建築を一生の道として選んだ自分にとっては、この上もない条件がそろっているのですが、このような流動期にある世界（建設業に限られたことではないでしょうが）が、自分自身の力をよく見きわめて、どの方向に進んでいったらよいのかどうか、迷いも多くなります。建築物の高層化は、従来の設計施工を拒絶し、需要の増大は建物の技術変化としてのプレハブ化を促してきました。鉄筋コンクリート構造規準、鋼構造規準の改定、さらに改定されるであろう鉄骨鉄筋コンクリート造規準などにも例示されると思います。これらのこととは、日頃から勉強不足であった自分にとってなんとも厳しい現実で、情けなく思うことは常であります。また知識は深く正確に憶えることが大切であることも痛感した一つにあげられます。建設業に限らないでしょうが、施主あっての建築でありますから安価で良い建物を提供することは勿論、期限の厳守は絶対的なものであります。三つのどれが欠けてもまずいのですがとりわけ時間に対する観念は、異常なものです。限られた時間内で前記の三項目を満足させることは、当然のことながら難しいことで、それを解消するのは正確でより深い知識による判断力でありましょう。しかし、需要の増大と工事の大規模化、技術の高度化は、一人の人間をオールマイティであることを許さなくなっていました。もはや個人プレーの時代は去り、チームプレーこそ自分自身を生かす道であると言えます。スペシャリストと呼ばれる個性集団こそからの建設業の基点となることは、まちがいないと思います。ここにおいては単に数学的知識だけでなく、協調性に代表される人間関係も一つの重要な要素となることは言うまでもなく、

考え方によっては最も難しく修得しがたいことかもしれません。入社後八ヶ月余りの自分にとってスペシャリストが当面の目標であることは勿論なのですが、その地固めとなる知識を広く身につけることもなかなか容易ならないといった現状です。そこで次の三つのこととを最低限守って目標にアタックしたいと思っています。

第一は、健康管理です。ぼくが八ヶ月余りの会社生活で最も痛感したといつても過言ではないと思います。恥かしいことなのですが日頃の不節制がたたって一ヶ月余り入院するはめになって、改めて痛感させられました。健康でさえあれば少々の困難は、なんともなるものです。友人を出来るだけ多くもつこと、これを二つめにあげたいと思います。良きライバルとしての関係ならばなお結構ですし、自分の職場内だけでなく広く求めることも必要なことです。これは、ぼくのように社会人一年生には当然のことかもしれません。しかし、正直なところなかなかこのよう心境に達することは、大変でして、私の室のように七十名余りの内四十名が女性であったりしますと、彼女等の前あるいは、上司に対して、同僚に対しても背伸びした自分を見せたくなるものです。『自分より「下層」の人と思っている人に対しては、一種の優越感が働き「彼らとは差をつけたい」と思う「優越感の見栄」、一方自分より「上層」と思っている人に対しては「あの方々にあやかりたい」と願う「劣等感の見栄」に支配されやすい。つまり上を見あげ、下を見おろして両方からくる二重の見栄におちこんでしまう人間が、産業と経済の発展と共に、その割合が増加してきていることは、非常にかなしいことである。』と某誌で大学教授が述べておられましたが、このような状況であるからこそ自分自身同時に他人に対しても素直であることが大切なことか再認識すべきです。こう書いてきて読んでみると文頭の約束は、どこかへいってしまいましたとまりに欠けてしまったことを、お許し下さい。

社会に出てみて毎日が、時間との競争で終始している現在、学生時代、無駄に時間を費やしことが、悔まれなりません。校友の皆様には、スポーツに学問に力いっぱい邁進してほしいと思います。ぼくも極力、自分自身の時間をつくり、体力作り、読書にかけることをお約束いたします。

（筆者第19回建築科卒業

KK フジタ工業勤務）

反骨所業

工化吉住哲夫



何の情緒も無い、昼休みのサイレンが、工場の機械音の間から、僅かに聞き取れた。この一瞬、仕事の動作が止み、只、あの不味い食堂の飯を、無造作に口へ運ぶ行為を習慣づけられた作業服と作業帽の人間が、我先にと集まる。1つ1つのテーブルに陣を取って、何を語っているのか。ザワザワと俺の耳に響くだけである。これらの行為を目前にして、新入社員同志は、仕事の内容、会社の動向、生涯の問題などを、不満だらけに話合う。しかし、それも、自分の夢が次第に崩れた事を、一生懸命否定しようとする姿なのかもしれない。そして、仕舞には、うちの会社は、なぜ女子社員に美人がいないのだろうと、とんでもない方向に話題が移行する。そのくせ、近くを通った女子社員がいるとあのこ、どこの課の誰だ？などと女性に飢えた様な目付きで同僚に質問するのである。そして、数週間後以外にも、新しいカップルの出現である。本当に人間というのは、弱いものであると改めさせられる。学生時代の夢が、徐々に現実に押し流されて行く反面、何かに縋ろうとする一若者の偽らざる姿なのかも知れない。しかし、恋をした若者の強味もある。彼女の為にという、新しい夢が本人の知らない間に働きかけ、生生とした新サラリーマンも登場しかねないからである。学生の時、諸教授から、実社会の姿を笑い話に交えて講義を受けた事を今でも覚えている。その時は、我々は、そんなものだろうなあ、と脳裏に描いても、やはり、虚空の事実でしかなかった。現実はもっと厳しく、個性を生かし切れる世界ではなかったのだ。でも会社の中で、一般化して行く自分を決して、失うことは許されないのだ。仮令、企業に服従する人間を、上役が望んだとしても、現時点での錯覚に過ぎないのである。いずれ、各人の個性によって、大きく繁栄する事も未来には可能ではないだろうか。これもやはり、学生気分から脱皮していない夢物語かもしれない。女性を求め、酒に酔い、チンチャラに通い、夜の紅い灯、青い灯を求めてサラリーマンの不満を晴らすのも良い。しかし、翌朝、その不満が晴れたままで、出社したのではあまりにも健忘症に侵され過ぎてはいないか。月にたった一度の袋の中に聖徳太子が何人手をつないで入っていくよう、それに満足（誰もしてはいないだろうが………）し、サラリーマンの宿命に甘んじてはいけない。日大工学部の反骨精神の本当の所業を見るがいい！世の中、全て、最終的には、我に利あり……でも、やっぱり、俺に出来るだろうか？俺も、人の子だから…。

所感

機械 富田康夫



郡山の地を後にしてすでに8ヶ月、何かにつけて古き良き4年間をなつかしむ事しきりの今日この頃である。寮に帰ってきてボンヤリした時など、ふと頭に浮ぶのは、学生時代の思い出である。それが郡山の町並であったり、友人の顔であったり、様々であるが、4年間の生活の重みを感じる次第である。現在の束縛された状態から考えれば、学生の時程、良い意味でも、悪い意味でも、自分のやりたい事が出来た期間というのは、他にないのではないかと思い、後悔の念が後をたたない。私は去る9月20日に、正式にモートル製造部技術管理課へ配属となり、現在現場で実習中である。御承知の様に、現在我国経済は、不況の波がおしよせているが、我工場も例外ではなく、特に私のいるモートル製造部が、一番厳しいらしく、量から質への転換を目標に、部あげて邁進中である。さてここで、現在私のいる工場に、落ちつく迄の経過を話そうと思う。4月1日から日立市において、10日間の集合教育が行なわれ、その後、各地へ配属という事になっている。この集合教育の3日目に配属希望をとり、集合教育終了1日前に、配属発表という段取りであった。私は自動車部にいた関係上、車両関係方向を希望した。即ち、第1第2希望は、車両の山口の笠戸、茨城の水戸両工場を、第3希望は、同じ茨城の、自動車電装品の佐和、家電品の多賀工場のどちらかにするか大いに迷ったあげく、結局多賀工場に落ちついた。6日後、いよいよ皆の衆目するところである発表となり、私は第3希望の多賀工場と決定した。後日、佐和工場を見学する機会があった時、エミッションコントロールの研究等もしていると聞き、第3希望は、佐和にすればよかった、などと後悔したものだった。（私の卒研のテーマが、排気ガスに関する研究、であった。）それ以来現在に至っているが、ここで多賀工場の生産品について説明すると、モーター応用家電品が主力で、その他、ホイスト、モーター等があり、最近、省力機器に力を入れ始めている。さて、工場内配属迄実習という事で、9月20日迄、現場、検査両実習に夫々2ヶ月ずつ体験させられた。という訳で、実習で8ヶ月過ぎ、仕事らしい仕事はなかったが、検査実習は、実習とはいえ、仲々面白かった。それというのも、現在工場が直面している、製品についての様々な問題について、一人一人に課題が与えられ、それについて研究させられるわけである。私は電子レンジ用プロアーモートルの、ショックによるメタルロスの解析、というテーマが与えられた。この実習で、実験の難しさ、特にその実験に至る迄のプロセスの立て方の難しさを思い知らされた。

学生から大人としての立場へ

電気印南進



早いもので卒業して近々一年になる。何をするにも自由であった学生から社会という一個人として責任と生活力を自覚しなければならない立場であることを認識する必要がある。今日そのむずかしさと重大さを痛感する次第であります。自分は今自営業に従事しているから余計に

それを感じるのかも知れませんが他の卒業生もその事は充分感じていると思います。毎日の一つ一つの出来事が自分の責任となってくるのです。学生時代の自由な行動など何一つ有り得ないと言っても過言ではありません。またそれを自分に言い聞かせて自覚し認識しなければならないことは言うまでもないことです。学校に於て学んできたことはひとつの理論であり社会においてその理論がそのまま通用するものは何一つなくそれに勉強を積み重ねて、完全なものに近づけることがこれからの一社会人としての務めであると思っています。その勉強の中には専門分野の勉強も当然の事であるが専門分野であるからこそその他の政治問題、社会問題などに対してのものが重要とされるし又それらの問題に対してめんどうくさいとかむずかしいとか中途でその問題を投げ出すことも許されることではないように思います。最近の自分の仕事の中においてはもちろん学校に於ての勉学の基礎を生かすことが出来ますがその事よりもむしろ社会、経済、といったものが直接身に振りかかってきます。セールスのポイント、客接待のコツ、日常の会話に於ての話題など今までがのんきに暮していただけに反省することばかりです。現在の経済状態、社会状態、からみても何か一つの転換時期であるかのように思われます。それを同時に私達の年令層の人達にとっても転換時期であるように思われます。今までの不況といふもの又政治混乱といったものを直接に味わったことのない者達がどう言った態度でそれに対処してゆくべきか、自然の成行きにまかせてゆくのではなくそれに対し何か考慮して適切なものとして行動して行かなければならぬしそうしなければいつの世でも同じ事だと思いますが自分というものを見失ってしまうように思われます。そうかといってその行動というものが一時の自分の心の高まりであってもそれが成功につながるものとはかぎらないしその行動に対しては、やり直しがきかないこともあります。従って慎重に物事を考え行動に移さなければならぬと思っております。とにかくこれらの自分の人間としての地位、生活、といったものが一つ一つの行動と共に築かれて行くのですから一日一日を大切に暮して行かなければならぬと思っておりますがなかなか現実のものとならないこともあります。

(筆者電気科第19回卒業)

社会人一年生

工化長沢久雄



一枚の卒業証書と一冊の卒業アルバムを手にして、恩師や友人と「さよなら」、「元気でな」と声を掛け合い郡山を去って早や九ヶ月。今、学生時代を振り返ってみると、四年間という日々もいつの間にか過ぎてしまった感じがする。しかし我々の時代は実にさまざまな事があり大変な時でもあった。日大始まって以来のスト騒動。ストに対しては賛否両論の意見があると思うが、それは別としても、どこにあの様なエネルギーがあったかと思う程でした。学校封鎖やデモ、討論会、試験放棄、封鎖中の学園を離れて、音楽やピンの倒れる音の聞えるボーリング場での集中講義、何もかもが今は懐かしい思い出としてだけうかんできます。

入社してようやく会社の仕事にも慣れ、一人前とまでいかなないにしても、仕事も出来る様になりましたが、給料を稼ぐということは容易な事ではないと、最近つくづく感じています。学生時代にもっていた「働く」という考えが甘かったのかもしれません。

私の会社は界面活性剤を主に製造しているのですが、一般商品として市場に出でていないので、いつも会社の説明をする時は、ひと苦労しています。界面活性剤といつても、主に繊維の製造、染色、織物工業で使用される商品を作っています。これについて書いていると原稿が何枚あっても足らないので省ますが、よくもこんなに活性剤の種類があるものだと感心する程で、だいたい四、五百種類あるのですが、いまだに全部覚えていません。定年までには覚えられるだろうとのんびりやっている不真面目な社員です。

産業界は今や不況ムードで我社も繊維界に片足をつっこんでいるので繊維の不振は我社にも関係してくるのではないかと思っています。今のところは、幸、我社においては不況は感じられませんが、その兆候は経費節減等に現われており、他人事でなくなる日も近い気がします。友人の会社が近いうち縮少するなどという話を聞くとなおさらのことです。これもそれも「日米繊維協定」の為也。(佐藤さんどうにかして下さい)会社に就職して感じた事は学校で学んだ事はすぐに役立つものがほとんどないという事でした。この考えは学生時代から想像はしていたことなので、みごとに予想的中。化学分析や機器分析は高専を卒業した人の方がはるかに上手で、我々は最高学府を出ているのに、満足に機械一つも使えない。悲しいことですがこれが現実です。しかし我々には「考える」という土台があると自己満足をして毎日がんばっています。

(筆者工業化学科第19回卒業)

松本油脂製薬KK勤務

校友の都道府県別勤務状況調

調査によせて

この表は、校友会事務局に常備し活用している会員名簿の台帳によって調査したものである。調査後の所感を若干述べることにしました。

1. 大要であること……工科系の卒業生は専門科目の性格上から判断して、勤務先や居住地の移動が比較的頻繁であるから、正確な調査は望めない。この表はその大要を表わしたもので、大体の傾向を把握できればと思うものである。
2. 大都市に就職している人の中には、隣接府県よりの通勤が相当数あるが、あくまでも勤務地を対象として計上したことを理解していただきたい。
3. 前回の昭和42年2月に調査したものと比較してみると、大都市に勤務している数が目立って増加したことがわかる。例えば、東京都～前回は31.05%今回は31.31%大阪～前回は4.06%今回は4.90%などである。
4. 全卒業生の約21%が勤務先不明であることは、何としても残念であり、何とか連絡のつきますよう希望するものである。
5. 死亡なされた校友が44名を数えておりますが、誠に遺憾の極みであります。原因はいろいろあります。その中には交通事故によるものが何人かおられるようです。十分注意いたしましょう。

昭和46年8月1日現在

卒業生の都道府県別勤務状況調

順位	都道府県	土木	建築	機械	電気	工化	計	比率%	順位	都道府県	土木	建築	機械	電気	工化	計	比率%
1	東京	435	744	468	451	211	2,309	34.31	27	京都	1	15	9	4	5	34	0.50
2	福島	193	122	117	154	58	644	9.57	28	秋田	10	5	7	4	4	30	0.45
3	神奈川	58	105	159	118	71	511	7.59	29	岐阜	9	4	7	4	4	28	0.42
4	大阪	70	102	82	39	37	330	4.90	30	香川	7	7	6	2	1	23	0.34
5	愛知	58	68	90	43	40	299	4.44	31	長崎	3	8	3	7	1	22	0.33
6	静岡	54	62	68	36	31	251	3.73	33	大分	10	6	3	1	2	22	0.33
7	埼玉	21	21	99	39	56	236	3.51	33	山梨	9	1	4	5	—	19	0.28
8	北海道	58	66	37	24	9	194	2.88	33	愛媛	5	4	7	1	2	19	0.28
9	宮城	46	53	31	39	7	176	2.62	33	佐賀	4	9	2	2	2	19	0.28
10	新潟	40	43	32	19	15	149	2.21	37	沖縄	2	6	3	6	2	19	0.28
11	千葉	61	22	30	10	20	143	2.12	38	高知	9	1	5	1	—	16	0.24
12	広島	23	41	44	22	10	140	2.08	38	福井	10	2	1	1	1	15	0.22
13	茨城	34	17	29	27	7	114	1.69	40	宮崎	7	3	3	1	1	15	0.22
14	栃木	17	13	37	22	11	100	1.49	41	鹿児島	5	2	1	4	—	12	0.18
14	福岡	22	27	24	19	8	100	1.49	42	奈良	2	4	4	—	—	10	0.15
16	群馬	15	22	31	20	9	97	1.44	43	熊本	2	2	2	1	1	8	0.12
17	山形	27	23	15	15	7	87	1.29	44	徳島	2	2	3	—	—	7	0.11
18	兵庫	10	29	23	8	13	83	1.23	44	和歌山	2	—	2	1	—	5	0.07
19	富山	20	14	12	16	7	69	1.03	46	島根	2	3	—	—	—	5	0.07
20	長野	11	14	18	14	6	63	0.94	46	滋賀	1	—	2	—	—	3	0.05
21	岡山	13	9	20	7	7	56	0.83	46	鳥取	1	1	—	1	—	3	0.05
22	岩手	13	23	7	5	2	50	0.74	49	韓国	1	1	—	1	—	3	0.05
23	三重	11	9	9	4	9	42	0.62	勤務地判明数	1,441	1,785	1,582	1,228	694	6,730	78.51 100	
24	山口	6	10	9	9	7	41	0.61	勤務地不明数	312	496	446	368	176	1,798	20.98	
25	石川	7	19	4	3	4	37	0.55	死亡数	12	10	8	5	9	44	0.51	
26	青森	9	9	3	13	1	35	0.52	合計	1,765	2,291	2,036	1,601	879	8,572		

~~~~下記校友の消息をご存じありませんか~~~~

現在消息不明の校友が約500名に上り、全卒業生の約6%を占めております。この校友は勤務先・現住所・父兄住所とともに不詳のため連絡がつかないでおります。したがって会報や名簿などを送ることができません。このことは事務局として非常に残念に思っております。何とか手掛けがないものでしょうか。お心当たりの方は何等かの方法によって連絡がつきますよう特段のご協力を願い申し上げます。

今回は紙面の都合により、第1回から第13回卒業までについて掲載いたしました。なお、いつものことですが、ご自身の住所や、勤務先に異動が生じた場合には、なるべく早くお知らせ下さるようあわせてお願いいたします。

【土木】1回 伊藤勇介 高野信夫 和田弘三 関本行雄 遠藤俊一 3回 杉原 裕 新田盛昭 4回 池内典也 鈴木 淳 松田光司 5回 川崎利武 吉田明恒 比佐 昭 6回 勝又 宏 小林輝孝 祖父江法久 舟木常雄 山吉 直 千田義三 錫島 厳 7回 今井武雄 高塚好敏 尾股敬三 鈴木雅雄 国米正明 桜岡文治郎 8回 大木秀一 進藤晋 宮田利夫 望月輝次 9回 桑田 幸 佐倉孝一 中村一司 志賀哲夫 10回 北御門義弘 但馬直高 栗原実 三宮久幸 11回 佐藤誠一 内藤高明 鈴木 黙 井上 篤 12回 飯島吉男 大坪俊雄 奥田昌一 木本豊次 渡辺邦臣 荒川伸二 石井 外 奉 川手正継 13回 石川 久 山口征彦 市原邦雄 長 悅雄 三輪隆司 叶屋 靖 松本宏司 馬越正保

【建築】2回 小林英一 古山茂夫 山崎静哉 3回 岡田喜四男 仁井田八郎 新沼正男 4回 菊地映 山下登夫 5回 猪塚裕司 佐藤 徳 真田 進 佐藤義明 吉田喜八 柳 一樹 6回 垣内義一 野添文雄 野村 靖 岩沢幹朗 7回 佐藤哲男 橋本龍美 中島信成 8回 小野卓也 坂本政俊 平島正昭 本吉宏次 田中輝章 浜中義允 白井秀晃 浜本朗二 大山利秋 高浜健郎 春本 明 9回 大高薰 梶原勝弥 斎藤英則 本間武彦 山栄博治 徳永亦二郎 佐藤 明 松田 匠 吉田壯一郎 渡辺 健須賀敏行 山本邦彦 上脇田正人 10回 秋月志郎 石黒章弘 飯島 亮 木村紀雄 関口靖彦 富田 孝 中川文夫 斎藤末松 藤井兼藏 11回 伊藤 謙 稲倉宇文 倉賀野 明 炭谷恒夫 平野紀年子 得水弥寿彦 中村輝久 松本英雄 和田公一 高橋 実 中沢靖広 渡辺英正 新木健凱 12回 川口敦義 八木享 弓立将人 石本元彦 江藤征一 春山明身 13回 小玉憲一郎 鈴木保和 中島保次 安藤 徹 福永洋介 山口郁夫 井沢克幸 中山郁彦 松尾徹也

【機械】1回 村田繁雄 佐藤 実 鈴木光雄 3回 成田貞夫 村上昌治 4回 跡部太一 高橋 宏 水野雅之 5回 赤坂喜一 伊藤芳雄 日野喜彦 高見美乃利 富田光雄 横井雅治 大野惣治 小笠原昭治 6回 曲田 勤 川田修二 土岐沢敏郎 7回 生貝孝信 岡本定道 大野伸也 大西達真 加藤芳久

佐野常昭 塩田樹雄 藤田 功 山内 哲 横山明生 藤田 正 8回 石井 洋 江浜克郎 尾形史男 斎藤秀夫 中山 学 平塚秀二 井上敏一 9回 池田忠好 小島正也 杉原正敏 小宮山信章 雛司和吉 鈴木 慧 10回 熊倉勇夫 瀬賀弘志 中西真也 永海秀司 前田秀祐 宮野勇雄 山下勝義 星野 晃 梅沢 旭旭 11回 加藤正介 川田掃部 小泉剛士 佐々木 栄 庄境繁昌 鈴木秀治 竹村陸彦 田村允孝 英 繁富 丸山真三男 大石 強 大場 繁 高橋秀介 新崎政志 根橋良介 土屋幸司 12回 今井一晴 西谷忠久 久保博紀 小林忠仁 近藤 弘 鈴木英世 古田島 晓 清水幹哉 伊藤省一郎 岩淵佳紀 鈴木享 藤井光洋 13回 椎名正己 岩田利勝 池田豊興 藏本勇二 藤田定則 斎藤暁典 庄司寛郎 鈴木博

【電気】1回 菅野信吉 斎藤祐之進 鹿田啓嗣 平田義雄 渡部一治 佐藤末藏 2回 卓君敏一 3回 柏村 孝 4回 西館信昭 佐藤正弘 金子 正 5回 葛西武志 河合健一 西田修二 半田茂男 松野欣康 三上 亮 6回 内山茂登 斎藤貞夫 前田繁 山田邦久 7回 浅野俊一 小野 勇 小野田寿春 佐々木正成 斎藤恒男 清水仁男 高橋利夫 長谷川隆夫 東 孝夫 松永一雄 8回 柴田卓朗 富田雅也 名取輝夫 9回 石川武司 氏原悦雄 斎藤 敏 武内良男 浜田博己 藤井 公 渡辺威夫 清水信之 10回 門脇悦郎 加藤雅弘 木本 孝 北村倫康 佐藤信尚 安本行徳 笠原輝己 遠本 昇 烏枝 茂吉富貞夫 11回 高橋栄一 服部恵夫 小田原輝明 斎藤弘司 垣谷慎夫 12回 加藤邦彦 金久保 清 中務 勤 菊地宏篤 松本松見 森田 敬 山本守男 渡辺絢一 氏家秀昭 13回 黒沢秀樹 吉田 格 西勝朝彦 保坂隆夫 菅原喜雄 穂沢 博 奥山隆秀 有我尚子

【工化】1回 渡辺敏男 2回 遠藤幸伯 3回 保科直城 諸橋 明 松山儀蔵 6回 町田 弘 8回 加藤寛雄 9回 須崎卓也 石川フミオ 生松進 伊藤松男 10回 武田善雄 小川浩正 福島 敏 11回 阿部豊 徳永幸彦 富田宏 松下政広 12回 大倉喬介 大竹勝雄 沢野雅俊 渡谷恭一 植松文夫 烏羽和利 13回 大坪晋一郎 中野正義 石川雄二 大橋 聰

本会の活動状況

(4月—12月)

本会の主なる動き

月 日	内 容		関 連 事 項
4. 10	工学部校友会東京支部結成に根副会長 (前)出席する。	4. 16	昭和46年度入学式、武田会長出席する。
4. 18	昭和46年度定期総会を開催する(詳細は 7月発行した会報19号に掲載)	4. 30	日本大学校友会会則審議に出席するため 武田会長東京出張
5. 13	新年度第1回の理事会を開いて、理事の 事務担当を決め、新年度の評議員につい ての選考を行う。	5. 10	日大三高全国高校野球優勝祝賀会に、根 本評議員(本部)出席
5. 28	第1回の役員会を開催し、理事、監査員、 評議員の出席により、新年度の業務運営 について審議する。	5. 20	松戸歯科大学開校式に、根本評議員(本 部)出席
6. 18	本年度、あかしや災学生候補者の面接を 実施して下記10名を決定する。 土木 2年 松本昌樹 建築 2年 宮崎孝雄 建築 3年 渡辺 誠 建築 2年 茂木 勝 建築 2年 丹治郁夫 建築 2年 荒木栄廣 機械 2年 橋本雅典 機械 3年 渡辺富夫 電気 3年 梶沢静則 電気 3年 須賀彰広	5. 21	日本大学校友会会則審議に出席のため、 半沢副会長東京出張
6. 25	工学部校友会中京支部結成準備のため、 武藤事務局長名古屋市へ出張。	6. 5	時計台建設実行委員会解散会に、武田会 長外出席
7. 16	中京支部結成準備会に武田会長・太田副 会長・武藤事務局長が名古屋市へ出張。	6. 24	母校体育部壮行会に武田会長出席
7. 29	校友会報第19号を全校友に発送する。 昭和45年度卒業生の校友会員名簿を作成 して、第19回卒業生に発送する。	6. 30	日本大学校友会会則審議に出席のため、 半沢副会長東京出張
8. 5	理事会を開催して、“校友会館移転”に関 し学部に対しての要望事項を審議する。	7. 3	日本大学校友会会総会に出席のため、半沢 副会長東京出張
9. 9	第2回役員会を開催して、校友会館移転 に関する件を協議した結果、臨時総会を開 くことに決定する。	9. 2	日本大学校友会会則審議に出席のため、 半沢副会長東京出張
10. 17	臨時総会を開催して、校友会館移転につ いて審議する～詳細は本誌2頁の通り。	9. 16	武道館竣工式に武田会長出席
12. 11	本年度中間会計監査の実施	10. 30	昭和46年度北桜祭、工学部祭開祭式に、 根本評議員・佐藤経理部長が出席
12. 下旬	校友会報第20号を全校友に発送する計画	11. 3	武道館落成式典並びに、こけらおとしの 演武会に武田会長出席

会報原稿募集

校友会報は本年12月発行で第20号となりました。校友各位の暖かい御協力により、発行の永続を図るとともに、その内容の充実を期したいと念願するものであります。

については校友各位の広く深い体験と豊かな識見とに基づいた貴重な資料が数々お持ちのことと存じますので、どしどし原稿をお寄せ下さるようお願いいたします。

昭和47年度学生募集

1. 募集学科 土木工学科・建築学科・機械工学科・電気工学科・工業化学科
2. 試験期日 2月18日(金)→東京出張試験 3月9日(木)→郡山試験
3. 試験科目 数学一数学Ⅰ・数学ⅡB・数学Ⅲ
理科一物理B・化学Bのうち一科目選択
外国語一英語B
4. 出願場所 東京出張試験・郡山試験とともに、福島県郡山市田村町 日本大学工学部入試係
5. 試験場 東京出張試験→日本大学講堂 郡山試験→日本大学工学部校舎

日本大学工学部 福島県郡山市田村町